

第7次留萌市総合計画策定市民会議（第3回市民会議）会議結果

1 日時

令和8年9月30日(水) 14時00分～16時00分

2 場所

第2委員会室（留萌市役所3階）

3 出席者

(1) 市民会議委員

8名（谷座長、笠井副座長、新谷委員、大沼委員、鹿内委員、住吉委員、中出委員、山際委員）

（欠席）上野委員、米倉委員

(2) 報道機関

1社（留萌新聞社）

(3) 事務局

2名（林政策調整課長、山下政策調整課長補佐）



4 会議次第（要旨）

(1) 開会

（事務局）政策調整課長

定刻となりましたので、第3回留萌市総合計画策定市民会議を開催いたします。

本日は、第6次留萌市総合計画の検証結果のご確認とともに、第7次留萌市総合計画の基本テーマ及び基本理念について、ご協議いただきます。

第6次総合計画の検証は、これまでの取組を評価するだけでなく、次期計画において何を大切にし、どのような課題に取り組むべきかを考えるための材料となります。

また、基本テーマ及び基本理念は、第7次総合計画の基本構想を形づくる重要な内容です。

皆様から率直なご意見をいただき、今後の基本構想素案づくりにつなげたいと考えています。

本日の協議資料は、第6次留萌市総合計画検証結果（案）、次期計画の基本テーマ（都市像・ビジョン）（案）及び次期計画の基本理念（骨子）となります。

資料は、事前にお送りしておりますので、本日は検討の趣旨と論点を中心に説明いたします。

また、本日の目標といたしましては、第6次計画の検証結果について、次期計画に引き継ぐべき課題・意見を確認すること。

基本テーマについては、留萌の将来像として大切に言葉と表現の方向性を確認し、候補を絞ること。基本理念については、3つの柱の役割分担、内容の過不足、表現についてご意見をいただきたいと考えておりますので、よろしくお願いいたします。
それでは、ここからの協議の進行につきましては、谷座長にお願いいたします。
谷座長、よろしくお願いいたします。

(谷座長)

皆さん、お疲れ様です。本日も限られた時間となりますが、よろしくお願いいたします。

課長からご説明がありましたとおり、本日は一つの山場を迎えています。それは皆さんからそれぞれいただいたビジョンを精査し、一つの方向性を見出すということです。

前段では、第6次総合計画の検証として、この10年間で皆さんと確認してまいります。その後、資料2では都市像を、そして資料3の基本理念では、その将来像をどのように具現化していくかを深掘りしていきます。

本日、念頭に置いていただきたいこととして、この総合計画は来年度からの10年間、様々な状況があっても、このような方向性でまちづくりを進めるための羅針盤、いわば道しるべになるものです。

10年後、この道を進めば良いというまちの思い、留萌市民の安心のよりどころとなりますので、将来像のテーマを皆さんとともにしっかりと考えていきたいと思えます。

そのために、今日大事にしていいただきたいこととして、それぞれ何十年とこのまちで生きてきた中で、10年後、留萌をこんなまちにしたいという思いを最後まで大事にしていいただきたいと思えます。

2つ目は、その思いの主人公は人であり、留萌市民であるということ。そして、その思いを形にする市民も自分事とし、自分たちでこのまちをつくっていくといった3点について、考慮しながら、都市像をみんなでつくり上げていきたいと思っています。

それでは、早速ではありますが、協議事項の1つ目、第6次総合計画の検証につきまして、事務局よりご説明いただきたいと思います。

(2) 協議事項

① 第6次留萌市総合計画検証結果（案）（資料1）

(事務局) 政策調整課長補佐 説明

(谷座長)

ありがとうございました。

事前に資料をお送りしておりますので、生活の実感として感じられることや、今後重視すべき課題や視点について、それぞれ関わりのあった分野やご経験からご意見を伺いたいと思えます。

(委員)

教育・子育ての中で32の指標があるが、この数は予算規模と比例しているものなのか。

(政策調整課長補佐)

成果指標は進捗を測る指標の数となるため、予算規模とは連動していません。

(委員)

【1-01 地域産業の振興】

いろいろなお店が閉まることを知り、地元企業の部分では、もう少し施策として強く打ち出していくことも必要と感じている。

若手・中堅の地元定着を進めるとともに、起業・創業しやすい環境づくりや支援の在り方についても、国の政策金融公庫から借入した場合でなければ上乗せできないものもあるため、金額面を含め、下支えできる支援も必要と感じる。

地域資源を活用した特産品の販路拡大とブランド化においては、市で推進しているふるさと納税を含め、地元企業と連携のうえ、新たな品物を増やすなど、引き続き取り組んでいただきたい。

【4-02 社会教育の充実】

新交流複合施設の規模や機能は、今後の議論の中で、まちづくりの要になるが、施設の供用開始が総合計画の後年次になると考えたとき、前期基本計画の期間において、現在の社会教育施設をどのように維持管理し、充実させていくのかということは課題として考えていく必要がある。

【6-02 快適な都市機能】

市営住宅の集約化と適正管理については、古い平屋住宅などが徐々に縮小されていく中で、立地適正化計画との整合を図りながら、住みやすい地域に公営住宅を充実させてほしい。

(委員)

【1-01 地域産業の振興】

地元企業の支援において、従業員の確保や事業を継続させていくといった企業側の目線と同時に、市民側の立場で経済活動を行うにあたって、魅力的か、豊かさにつながるといった視点も必要に感じる。

その中で、外注するものは外注し、地元で揃えるものは地元で賄う視点の中で、おのずと必要な支援は見えてくると感じる。滝川や旭川で利便性の良いものは外注し、地元にあるべきもの、近くにあればもっと豊かになるというものを扱う企業に支援をしていく中で、まちの魅力につながると考える。

また、前回話をした刺激と安全について、安全は、医療や食べ物を購入する場所などであり、刺激は経済活動、買い物、観劇等を含むものとする。

昔は映画館があったが、それに代わる地元のエンターテインメントなど、そうした刺激を子どもの小さなうちから経験できることで、地元に戻ってくることにもつながると思う。

また、他地域にないものが留萌にあれば、他地域から利用してもらうことができ、地域の魅力を知るきっかけになると感じる。

(谷座長)

隣町ではスポーツジムであったり、自分の住む地域でスポーツジムなどにより余暇を充実させることができる視点も大切であると考えます。

【4-02 社会教育の充実】

子育ての段階を終え、時間に余裕ができ、余暇を楽しむとき、文化センターが身近に感じにくい。そういった機会がないのか、周知が不足しているのか、情報をうまく得ることができていないかもしれないが、先ほどと同じで、余暇を他で賄うのではなく、地元で補えるよう、力を入れていくことが大切である。

(委員)

【4-01 学校教育の充実】

【4-03 教育環境の充実】

学力向上では EC タイムや郷土愛を育む取組であれば数の子といった食育、佐賀番屋の見学、ウェブ等による教職員の資質向上、ICT についても 1 人 1 台端末を活用する GIGA スクール構想をはじめ、様々な施策に取り組み、現計画から着実に進展している印象がある中で、労働時間の削減、働き方改革、ストレス緩和も大きな課題であるため、子どもたちを現場で支える教職員のケアも大切であると感じる。

また、少子化の中で、義務教育学校や学校施設も課題になると感じている。

地元高校の魅力向上について、留萌高校は地元で唯一の高校であり、南留萌地域で唯一の高校である。現在も市から支援されておりますが、部活動においてスキーの越境入学をする生徒も受け入れている状況にある。近年は国公立大学への進学率も伸びていることから、しっかりと支える視点が必要であると考えている。

【5-02 安全・安心な暮らし】

【6-02 快適な都市機能】

除排雪に関しては、組合化となり、各社が協力のうえ、市民サービスの向上に取り組み、他地域と比べてもその水準は高いものと感じている。

一方、従事者の高齢化、担い手不足のほか、機械の維持・更新になかなか踏み込めない資金的な難しさも見えている。

将来に向けて、体制を維持していく視点をもって、人材育成や側面的な支援などについて検討していくことも必要である。

【6-02 快適な都市機能】

運輸に関しては、働き方改革、労働時間の抑制など、社会的な難しさもあるが、市から支援いただいた経過もあり、旭川トラック協会としては大変ありがたく感じている一方で、近年の燃油高騰の状況から厳しい声も伺っている。

(委員)

【4-02 社会教育の充実】

全体を通じてハード面で整っている部分は達成率が高く、ソフト面においても、子育てや学校教育など、目に見えるものは、力を入れているからこそ達成率が高い印象を持ちましたが、施策の達成基準が捉えにくいとも感じる。

音楽合宿やスポーツ合宿などを通じ、交流人口自体は増えることは良いことであるけれども、施設が整っているか、整っていないかという視点は達成基準に含まれないのか。新しくなればたくさん利用されるかということと人口減少が進む中、難しい部分もあり、公民館の利用人数自体は減少傾向にある。

図書館に関しても、デジタルで閲覧できる状況もある中、来館者数は激減している。

そういったデジタルの動きもある中で、図書館の意義として、何を判断基準・目標等としていくことが望ましいのか。利用者を増加させようとした場合、子どもたちの居場所としての施設の開放といった視点など、そういった面で目標を達成していると言えるのかとも感じました。

文化センター自体の質は良いが、観客席の椅子の状態など、老朽化は著しく、そういった部分も視点として捉えていく必要がある。そして、新交流複合施設を見据え、その間、どのように現施設を維持していくのか、もう少し課題として受け止める必要性と、成果指標と目指す姿の見えにくさを感じる。

【3-03 地域包括支援システム】

高齢者の社会参画の促進として、高齢者の事業については参加者が少なく、意識のある人しか参加していないように感じる。そういった意識の低い方にどのように参画いただけるか。事業を認識いただけるか。広報の充実、その重要性の周知、情報を得やすい環境づくりも必要と感じる。

【6-02 快適な都市機能】

コンパクトなまちづくりの視点は、そこに集まりやすいことや、利便性の集約の視点においても大事に感じる。

(委員)

【1-01 地域産業の振興】

物価高や資材高騰など、ハウスメーカーが主流の中で、地元で建築に関わる会社の数も少なくなってきた。大工職においては50代で若手、60代でベテラン、70代でようやく棟梁であったり、30代・40代の職人はなかなかいない実情がある。左官職においても高齢化が進んでいる。

そういった中で、今までは見て覚えるという時代だったかもしれないが、人を大事に育てていく視点が重要と感じている。例えば、現役を引退された職人を、育成を行う立場で受け入れられる仕組みであったり、子どもたちが職人の仕事を遊びながら知ることができる機会を通じて、将来、地元で働く職人を育てていくといった視点も大切と感じている。職人を育てていく考え方が必要である。

また、市内には、様々な職種において外国人就労者も多く、言葉の壁や生活環境、文化の違いによる地域との軋轢が生じることのないよう、困ることのないよう、お互いの文化を理解し合える視点や機会も必要と感じる。

(谷座長)

外国人の日本語教室の部分では、留萌市の支援の必要性も大事に感じます。

(委員)

【3-02 健康の増進と地域医療の充実】

【3-03 地域包括ケアシステムの充実】

高齢者施策については、社会参画の部分で達成との評価になっているが、バスに乗れる人は外出機会につながった一方で、外出できない高齢者をどのように考えていけるか。外出機会が増えれば、介護教室への参加にもつながります。もっと外出しやすい環境であったり、仕組みが必要です。

先日支援した方は、5年ぶりの外出となり、外出ができない高齢者がいることも課題として捉え、支援につなげ、どのように支えていくのが課題と受け止めています。

介護予防や認知症予防は、外出すること自体が予防につながりますし、人とつながることが大事な視点と思っています。高齢者が地域や社会、人とつながれることが大切です。

また、地域包括ケアシステムについては、国の制度が狭まりつつあり、利用サービスも制限が生じつつある中で、ボランティアや民間企業の力が不可欠となっている。

制度だけでは賄えない領域もあり、それだけでは賄いきれない状況もある。

高齢者を診ることができる人材もいないので、ヘルパーが入りたくても断らざるを得ない状況もある。要支援を受けていない人でも支援が必要な方がたくさんいる。そういった高齢者をどのように救い上げ、支援につなげていけるかが課題と受け止めている。

高齢者を地域で支える仕組みの中では、支える人も高齢者になってきているが、高齢者に何もしてもらえないのではなく、高齢者にできることはたくさんあり、高齢者も子ども・子育てを支えることができますし、高齢者とともに生きる地域の仕組みづくりが大切と感じる。

医療体制の維持については、堅実に進めていただくしかありませんが、医療人材はなかなか増えにくい中で、現場には夜勤があり、専門職の高齢化も進み、自由な働き方、働く環境を変えていくことを考えていかなければならないと感じる。そして、行政側で賄えないことは、搬送なりは外に頼るなど、お互いに助け合いながら、人材を回す視点も必要と考える。

（谷座長）

地域医療を官民とともに支える仕組みが、この地域には大事になると考えております。

（委員）

【4-02 社会教育の充実】

保護者同士ではスポーツ教室などで、市の取組を感じられるが、文化はどうか。アートはないように感じている。例えば、どこでも汚せるような空間があればという声もあるが、地元の方でなければ、なかなか知り得ないことも多く動けない。

廃材で自由に、好きなように使って遊べる場所や、そういったことをやりたいと思った人を支援できる環境づくりが必要である。また、そういった場で地域ならではの経験ができれば、選択肢や生活の充実につながり、将来像に掲げる豊かさにつながるものと感じる。

（谷座長）

環境づくりと情報の発信力を充実させ、豊かさにつなげていけるものと受け止めます。

このほか、お気づきの点がありましたら、後ほどでも構いませんので、私まで共有いただければと思います。

（事務局）政策調整課長補佐 説明

ご意見については、所管と共有のうえ、基本計画の中で検討させていただきます。

(谷座長)

それでは、次に基本テーマ案について、資料の説明をお願いいたします。

② 次期計画の基本テーマ（都市像・ビジョン）（案）（資料2）

(事務局) 政策調整課長補佐 説明

(谷座長)

将来像については、10年後の目指すべき留萌の将来像となります。このため、市民の皆さんにも分かりやすい表現で、10年後も共有できる将来像が必要と考えております。

また、前回の「波」という表現についても、非常に留萌らしい表現ではありましたが、自然災害などにより、どこかで心を痛めた方を思ったとき、その方にも寄り添っていきたくため、「波」という言葉ではなく「響き」という言葉に置き換え、留萌らしさを表現できればと考えました。

そして、「刺激」に関しても、事務局との議論を重ね、生活をするうえでの「豊かさ」という言葉に包括しています。

(谷座長)

整理案に対する意見をお願いいたします。

(各委員の意見)

- ・概ね案⑤「豊かさと希望を育み 輝く次代へつなげる るもい」を基本的な表現とし、案①「豊かさと希望を響かせ 輝く次代を育む るもい」も候補とする。
- ・輝く、つなげる、豊潤も表現としては望ましい。

【その他の将来像案について】

(委員)

- ・2036年 留萌の旅。豊かさと希望の共鳴 輝く時代へつなげる
「希望」を用いた場合、支える施策も重要と捉える。

(委員)

- ・輝く次代が響きあい 豊かさと希望を育む るもい

(事務局) 政策調整課長補佐

まちづくりを進めるうえで、大切にする基本理念の実現により、将来目指す姿が基本テーマとなり、市民の皆さんと共有するための都市像となります。

また、基本計画においては、基本施策レベルで、基本構想における将来像や基本理念を受け、目指す姿の検討を行ってまいります。

言葉のすべてを基本テーマの中で整理しきることは難しい部分もございますが、基本テーマ、解説、基本理念、施策の段階で補完できるものと考えています。

(谷座長)

なかなか絞り込みが難しい状況もございますが、第1回の市民会議から現在までの

議論において、皆さんの共通の思いや表現自体はまとまってきているものと考えます。
ここで将来像を支える基本理念について、事務局より説明をお願いいたします。

③ 基本理念（骨子） 資料3 （事務局）政策調整課長補佐 説明

（谷座長）

基本理念については、前は4本柱でしたが、3つの柱としております。横断的な展開が行いやすい構成と考えておりますが、先ほどの将来像を念頭に置きながら、皆さんの意見が網羅できているか、分かりやすい表現となっているかなど、意見を伺いたいと思います。

都市像は、10年後にこんなまちになってほしいという私たち10名で考える将来への思いとなります。

そこには高齢者の外出など、心も体も健康であることへの思いを「豊かさ」という言葉に込めており、将来像は横断的な表現になるものと考えます。そして、もっと外から人が来てほしいという思いは、この下の基本計画の施策段階で検討すべき内容と考えますし、私たちの将来像や理念の方向性を受けて、市役所の皆さんはその実現に向けて様々な検討をしていただけるものと考えております。

将来像を形にするために大切に基本理念は都市像とのつながりも意識した構成となっているか。お気づきの点があれば、皆さんから意見を伺いたいと思います。

（委員）

基本理念1「安心と豊かさを実感し暮らし続けられるまち」において、地域経済を支える産業の活性化の部分で、産業を企業と示す方が、企業を支えるという姿勢が明確になるものと考えます。

基本理念2「一人ひとりの幸せを育むまち」において、子育てや教育については笑顔につながるように読み取りができる一方で、大人の労働環境も含めて育てていくような視点も必要に感じられる。

また、将来像において「響く」という言葉を用いるのであれば、テーマの言葉をかみ砕いて、理念の中で文言に加えることも必要と感じる。

（委員）

留萌らしさは、言葉だけではどこのまちでもある表現と受け止めたが、説明を伺って解説を見ると理解につながった。

次代が一般的に分かりやすい表現となっているかとも感じている。

（谷座長）

留萌らしさは、言葉そのものではなくて、「一緒に育む」といった言葉に込めた思いであると考えています。

総合計画は、市民の皆さんにも身近に感じられるものとしていきたいと考えていますので、次代の部分は、分かりやすい表現とすることが大切な視点ですね。

次代にはこれからの時代と、後に続く世代の2つの意味を込めている。

(委員)

10 年前、自分自身が将来像や基本理念を認識していなかった部分もあり、理解いただけるかといった懸念がある。

(谷座長)

事務局とも協議を重ねているが、市民の皆さんにもっと議論の状況を含めて広報し、市民の皆さんにもっと身近に感じていただき、理解いただける計画にしていきたいと考えている。市民会議の顔写真入りのポスターを作ることなど、様々な手法により PR を考えていきたい。

(委員)

市民も情報が知り得ない部分もあるため、身近に感じていただくことで、自分事として捉えることにつながるものとする。

(谷座長)

そろそろ時間も近づいてきました。

本日の議論においては、将来像は、4 つの案を基本に、私と事務局において調整を行い、次回市民会議にお諮りしたいと思います。

また、基本理念については、内容も概ね網羅されていることから、この 3 つの柱を基本に、将来像の整理の中で精査する。

(将来像の方向性)

- ・豊かさと希望を響かせ 輝く次代を育む るもい
- ・豊かさと希望を育み 輝く次代へつなげる るもい
- ・2036 年 留萌の旅。 豊かさと希望の共鳴 輝く次代へつなげる
- ・輝く次代が響きあい 豊かさと希望を育む るもい

※表現の方向性としては、この間の議論を踏まえ、「豊かさ又は豊潤、希望、次代、つなぐ、育む」の方向性の中で、座長と事務局において検討を進める。

(各委員) 同意の声

(谷座長)

ありがとうございます。

それでは全ての議事が終了しましたので、事務局へお返しします。

(事務局) 政策調整課長

たくさんの意見をいただき、ありがとうございました。

次回市民会議につきましては、10 月 6 日又は 7 日で調整させていただきたいと考えており、後日、日程調整を行いますので、協力のほど、お願いいたします。

(谷座長)

それでは、全ての議事が終了しました。

本日は長時間にわたり、ありがとうございました。